



2017年1月12日
株式会社ベネッセホールディングス
代表取締役社長 安達保

第11回ベネッセ賞はパナパン・ヨドマニー氏に決定 福武総一郎特別賞をズルキフリ・マハムード氏に授与

シンガポール美術館と株式会社ベネッセホールディングスは、シンガポール・ビエンナーレ2016の参加作家を対象とする「第11回ベネッセ賞」を、タイのアーティスト パナパン・ヨドマニー氏に決定しました。受賞作家には株式会社ベネッセホールディングスより、ベネッセアートサイト直島での作品制作の機会と、賞金300万円（ベネッセアートサイト直島への招待を含む）が授与されます。また、今回、アジアで初めてのベネッセ賞実施にあたり「福武総一郎特別賞」をシンガポールのアーティスト ズルキフリ・マハムード氏に授与することとなりました。

一次審査選抜者を選定した国際審査員は、アジアにおけるアートの活力と深さを象徴するようなシンガポール・ビエンナーレの質の高さと多様性を高く評価しました。審査員代表の三木あき子は、ヨドマニー氏が選ばれたことに対し「絵画的・彫刻的・建築的でもある彼女の作品は、仏教コスモロジーとマイクロ・マクロのヴィジョン、伝統・近代的な技術、自然・人工素材が混在し、驚くような独自の風景を創り出しています。彼女の批評的な感性が、瀬戸内海の島で、人間文明や自然条件、現代における精神性等についていかなる深遠な洞察を生み出すのか、期待が高まります」と評しています。

ベネッセアートサイト直島代表の福武総一郎は、ズルキフリ・マハムード氏に福武総一郎特別賞を授与することに関し、「現代シンガポールにおけるアジア諸国からの移住者コミュニティの声や、生活の音を巧みに組み込んだ本作に個人的に大変感銘を受けました。瞑想的であり、様々な社会的領域や人間環境について、また我々の生について、知覚的かつ詩的な考察を促してくれるのです」と語っています。マハムード氏には、ベネッセアートサイト直島への招待が授与されます。

一次審査選抜者は、マルタ・アティエンサ (Martha Atienza) / フィリピン、アデ・ダルマワン (Ade Darmawan) / インドネシア、チュ・ジージュ (Qiu Zhijie) / 中国、ブイ・コン・カーン (Bui Cong Khanh) / ベトナム、パナパン・ヨドマニー (Pannaphan Yodmanee) / タイです。

第11回ベネッセ賞国際審査員は、ルッカーナ・クナーウィチャヤーノン (バンコク芸術文化センター・ディレクター)、南條史生 (森美術館館長)、三木あき子 (ベネッセアートサイト直島 インターナショナル・アーティストティック・ディレクター、横浜トリエンナーレ 2017コ・ディレクター)、スハーニャ・ラフェル (M+ (エム・プラス) 館長)、スージー・リンガム博士 (シンガポールビエンナーレ2016 クリエイティブ・ディレクター) (五十音順) です。

【お問い合わせ先】

ベネッセアートサイト直島 広報担当 長瀬、明日 (あけひ)

電話：087-892-2887 Eメール：BASN-press@mail.benesse.co.jp

「ベネッセ賞」について

「ベネッセ賞」は1995年、第46回ヴェネチア・ビエンナーレの一環として、国際交流基金と福武学術文化振興財団（2012年より公益財団法人福武財団）が共催し、株式会社ベネッセコーポレーションが支援した「トランスカルチャー」展に合わせて実施されました。ヴェネチアと直島は全く違う場所でありながらも、両者とも水に囲まれ、地元コミュニティと世界を結びながらビジュアル・アートを促進するという共通点があるため、この2つの場所を繋げるアイデアが生まれ、ヴェネチア・ビエンナーレでの「ベネッセ賞」が発足されました。

発足20年の節目を迎え、アジアへ拠点を移すことになりました。これは、ベネッセ事業も根付いているアジア地域内での連携を強化するとともに、今日の現代アート制作を取り巻く状況や環境の劇的な変化を反映したものです。

過去の受賞者

第1回（1995年）蔡國強（中国）

第2回（1997年）アレキサンドロス・プシフーリス（ギリシャ） *ヴェネチア・ビエンナーレと共催

第3回（1999年）オラファー・エリアソン（デンマーク）

第4回（2001年）ジャネット・カーディフ&ジョージ・ビュレス・ミラー（カナダ）

第5回（2003年）リクリット・ティラヴァーニャ（タイ）

第6回（2005年）タシタ・ディーン（イギリス）

第7回（2007年）アデル・アブデスメッド（アルジェリア／フランス）

第8回（2009年）ハンス＝ペーター・フェルドマン（ドイツ）

第9回（2011年）アドリアン・ヴィジャール・ロハス（アルゼンチン）

第10回（2013年）アンリ・サラ（アルバニア、フランス）

※第10回までのベネッセ賞は第46回から第55回のヴェネチア・ビエンナーレで実施

ベネッセアートサイト直島について

ベネッセアートサイト直島は、直島、豊島、犬島の三つの島を舞台に、株式会社ベネッセホールディングスと公益財団法人福武財団が展開しているアート活動の総称です。

文化的、歴史的に豊かな美しい瀬戸内海の自然の中に現代アートや建築を置くことによって、どこにもない特別な場所を生み出していくことを目指しています。

アート作品や自然、瀬戸内の風景や地域の人々との触れ合いを通して、訪れてくださる方々がベネッセホールディングスの企業理念である「ベネッセよく生きる」とは何かについて考えるきっかけとなればと思っています。

そして、活動を継続することによって現代アートとそれを包括する場である地域がともに成長し続ける関係を築き、地域社会に貢献できることを望んでいます。

詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

<http://benesse-artsite.jp/>

ベネッセホールディングスについて

ベネッセグループは「Benesse=よく生きる」という企業理念のもと、教育、語学、生活、シニア・介護の分野で、お客さま一人ひとりの意欲向上と課題解決を、一生涯にわたって支援する企業グループです。グループ内には、幼児から高校生を対象にした日本最大の通信教育サービスである「進研ゼミ」「こどもちゃれんじ」や学校事業などを行う「株式会社ベネッセコーポレーション」、高齢者向けホーム運営のリーディングカンパニーである「株式会社ベネッセスタイルケア」、世界最大の語学学校である「ベルリッツコーポレーション」を有しています。

シンガポール・ビエンナーレについて

シンガポール・ビエンナーレは2006年、シンガポールにおいて、優れた現代アートの国際的なプラットフォームを築くために設置されました。シンガポール・ビエンナーレは、シンガポールのアーティストたちが世界に飛び立つ機会を与え、世界のアート・コミュニティとの精力的な活動を支援します。また、シンガポールのビジュアル・アート界のアーティスト、関係団体・企業に対し新たな機会を提供します。さらに、この4か月間の展示、アーティストとキュレーターのトークやツアー、学校訪問、ワークショップのような参加型の教育プログラムなど、一般の方々に現代ビジュアル・アートに触れる機会を創出します。こうした活動は、シンガポールのアートや文化以外の分野をも引き立てることとなり、生活、仕事、余暇のすべての面において魅力的な都市であることを国際的にアピールすることにもつながります。2006年、2008年のビエンナーレは、ナショナル・アーツ・カウンシルが主催しましたが、2011年、2013年、そして今回の2016年はナショナル・アーツ・カウンシルから委託されシンガポール美術館が主催します。詳しい情報は以下ウェブサイトをご覧ください。

www.singaporeartmuseum.sg/SingaporeBiennale

シンガポール美術館について

シンガポール美術館（SAM）はシンガポール、東南アジア、アジア地域におけるアート制作やアート構想に焦点を置き、世界的視野を持ち備えた現代アート美術館です。さまざまな分野の現代アートを支援するとともに、リサーチや新しい展示方法を通して、来館者に現代アートに親しんでもらいやすい工夫をしています。1996年1月の開館以来、アジアの最も重要な現代アート作品を収集しています。展示や一般向けプログラムを通し、シンガポールに刺激的でクリエイティブな場を作り、来館者一人ひとりの体験を深いものにする努力をしています。また、公共アート活動、教育事業、リサーチ、出版、分野を超えた交換プログラムなども行っています。

ロケーションはふたつあり、一つは1855年に建てられたセント・ヨセフ学校（ブラスバサー通り）の元校舎で、現在は国定史跡になっている建物です。もう一つは「SAM at 8Q」という、クイーン通りの向かいにある元カソリック高校校舎を保存した建物です。

2011年、シンガポール・ビエンナーレの開催場所として運営に携わり、2013年と2016年は主催者となりました。2013年11月13日に文化・社会・青年省に、公開有限責任保証会社として認可されました。詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

www.singaporeartmuseum.sg

ナショナル・アーツ・カウンシルについて

ナショナル・アーツ・カウンシルはシンガポールにおけるアート全般を支援しています。優れたアート活動を支援し、様々な人々が幅広くアート活動に関与するよう促し、シンガポールを世界に名だたるアートの都市に発展させたいと考えています。伝統を重んじながらも将来を見据え、成熟したアーティストや活気ある会社を支援しています。助成金、パートナーシップ、関係性づくり、アート・ハウジング提供などアート活動に対する支援を幅広く行っています。また、一人ひとりがアートのある生活を過ごせるよう、アートにかかわる個人や企業とさらなる協力を進めたいと考えています。ミッションや企画など、詳細は下記ウェブサイトをご覧ください。

www.nac.gov.sg

※資料① パナパン・ヨドマニー (第11回ベネッセ賞受賞)



パナパン・ヨドマニー (1988年 タイ ナコーンシータンマラート生まれ)

仏教の教えと人々の生活の関連性についての作品を制作。自然に存在する素材と現代のファウンド・オブジェ、タイの伝統的デザインやモチーフを用い喪失、苦しみ、破壊、生と死の輪廻のサイクルなどの普遍的なテーマをとり込んでいる。これまでタイ伝統絵画賞(2013年)、タイ若手アーティスト賞(2006-2007年)等を受賞。2015年にはサーチ・ギャラリー(ロンドン)およびバンコクアート・カルチャー・センターにて行われた「Thailand Eye」展に出展。現在はバンコク在住。



Aftermath (2016年)

ミクストメディア:作家手製の偶像、コンクリート、絵具

サイト・スペシフィック・インスタレーション

300×1600cm

アーティスト所蔵

シンガポール・ビエンナーレ 2016 コミッション作品

アーティスト・ステートメント

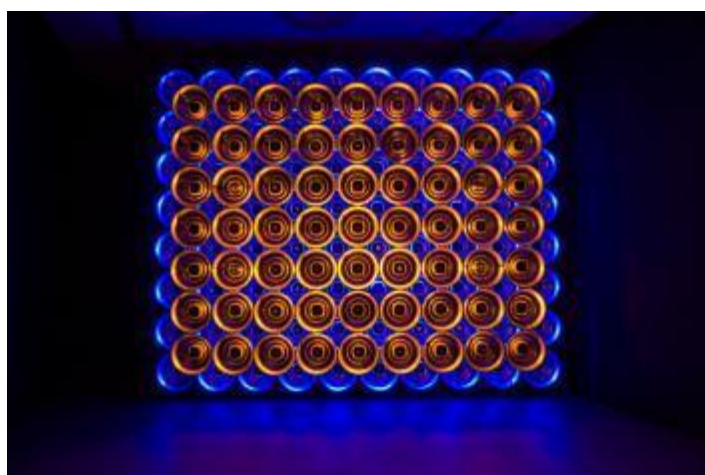
危機的な状況は自然現象の真の姿であり、コントロールできない数々の変化は人々の心に恐れ、圧力、悲しみを引き起こし、結果人類は宗教に頼ることになりました。危機的状況での時間、喪失、苦しみ、破壊そして終末といったことへの想像は、仏教における世界観への私なりの理解、科学との対比によって深まりました。私は作品の中でこれらの考えを自然界にある、または新しい素材を使って表現しています。

※資料② ズルキフリ・マハムード (福武總一郎特別賞受賞)



ズルキフリ・マハムード (1975年 シンガポール生まれ)

サウンドメディア・アーティスト。ドローイング、プリント、彫刻やレディメイドなど多様で形式を超えた表現方法をとる。これまでシンガポール、マレーシア、タイ、香港、中国、日本、ドイツ、イタリア、ロシア、ノルウェーで作品を展示。岐阜おおがきビエンナーレ(2006年)、ベネチア・ビエンナーレ(2007年)シンガポール代表。2010年、Straits Times紙による Life!Theatre 賞をベスト・サウンドデザインで受賞。2015年には、シンガポールのアートを紹介する「Singapore: Inside Out」に参加、この展示は北京、ロンドン、ニューヨーク、シンガポールを巡回した。現在はシンガポール在住。



SONICreflection (2016年)

中華鍋の蓋、高音専用スピーカー、ペンシルマイク、コンピューター、アンプ、サウンドカード、アルミ

380 × 673 × 134 cm

アーティスト所蔵

シンガポール・ビエンナーレ 2016 コミッション作品

アーティスト・ステートメント

SONICreflection はシンガポールにおける音の領域と緊張を模索し検証するインスタレーション作品です。文化が融合する都市として、シンガポールには多くの移民がいます。ほとんどの東南アジアからの移民が、タイ街、ビルマ街、ベトナム街、フィリピン街など自分たちの「街」を形成しています。それぞれの「街」は文化、食、音の面で個性を持ち、それがその場所での音の領域も形成しているのです。